

## 令和7年度日光市まちづくり懇話会(栗山地域)概要

日 時:令和 7 年12月17日(水)午後 3 時 00 分~4 時 20 分

場 所:日光市役所栗山行政センター会議室

参加者数:○地域側参加者5名

○市側参加者 (市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、他地域振興部職員)

### 【市長】

皆さんお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回は「まちづくり懇話会」ということで、全 9 カ所でのこのような形で地元の方々と意見交換をさせていただいております。既に 6 回終えまして、残すところ本日を含めてあと 3 回となりました。冒頭に少しお話をさせていただきますが、基本的には地域に関わることにについて、我々が皆さんのお話を聞き、地域の課題やお考えを持ち帰って、できる限り今後のまちづくりや事業につなげたいという思いで進めています。1 時間半程度の時間となりますが、事前のアンケート以外にもご意見など、お気づきの点があれば遠慮なくお話しいただきたいと思います。こういった場で率直にご意見を出していただくための機会ですので、よろしく願いいたします。

今年度は「あなたとつくる、日光の新しい景色」というテーマのもと、冒頭 5~10 分ほどお話をさせていただき、どのような日光市を考えているかを少しお伝えします。自治会長の皆さんには、先日は自治会連合会でもお世話になりました。あの時は「女性と若者」の視点からお話させていただきましたが、本日は地域のまちづくりをどのように進めるかという視点でお話しします。

私は市長になる前の議員時代は、主に日光地域のいわゆる過疎地域で活動してきました。国はよく首都圏一極集中では駄目だ、地方が元気でなければ、活性化しなければ、国全体も盛り上がらないし、経済も伸びない。そんな議論のもと、地方創生がここ 10 年ほど叫ばれています。私のまちづくりへの考えも同じで、日光市全体が元気になるためには過疎地域も自分たちのポテンシャルや特色を活かし、しっかりしたまちづくりをして活性化させる必要がある、それが他の自治体との競争力にもつながると考えます。

市制施行 20 周年となり、合併後の一体感醸成も進んできましたが、今後は原点に立ち返り、地域ごとにポテンシャルや特色、コミュニティ等、それぞれのまちづくりをしていく必要があると思っています。栗山は地区ごとに伝統や歴史など繋がりが有りますから、栗山地域全体で一つになり、それぞれの強みを活かして持続可能なまちづくりを進めていかなければならないと考えています。

私や副市長は現場主義ですので、就任後、川俣や奥鬼怒を回り4事業者の話を聞いたり、湯西川地区でもどのようなことができるか実際に話をさせていただいているところです。

行政だけでなく、民間の力や地域おこし協力隊、場合によっては隣の自治会とも協力し合いながら、理想と現実を組み合わせるまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、皆様のお力添え・ご支援をお願いしたいと思います。

事前アンケートだけでなく、今思われていることもぜひお話しください。番号順で進めますので、順番をお願いいたします。

### 【参加者 A】

栗山地域は市長のおっしゃるとおり、とてもエリアが広いです。小さな集落が川俣からずっと点在しています。数十年前には、それぞれの集落で仕事があり、成り立っていましたが、今は高齢化して収入を得ている人もほとんどいません。主に年金暮らしで、若い人は都市部や他地域へ出て行ってしまいます。足尾地域の

方からは若者は今市地域に出て行ってしまうという話を聞きましたが、働き口が無いと若者は出て行ってしまいます。

観光地の湯西川ではホテルや旅館で働けますが、近年は観光も下火ですので、観光を盛り上げる努力が必要だと思います。先日、日光市の協力を得て湯西川地区で実施した「平家あかり」は評判が良く、お客さんが喜んでくれました。観光資源がある川俣などももう少し日光市の力を借りて活性化していきたいと思っています。

以前は栗山地域も林業が盛んで、私も15年前に自分で会社を作って林業をやっていますが、資金の問題もあり若い人が起業するのはなかなか難しいです。起業支援などについて市からご支援いただき、地域資源を活かした企業が生まれれば、地域も活性化できると思います。今市地域も昔は林業が盛んで、現在は違う業種でも元々材木業の人が多いです。栗山地域では今市地域の材木業の人が出資して、地域のホテルや旅館を建てた経緯もあり、そこで働く人は地域の人という状況でした。

全体的に高齢化が進み、子どもも減り、学校も閉校となっています。ダムができたこととは別の理由で人が減っており、子どもが増えれば学校も再開できますが、現状は難しいです。

【参加者 C】

子どもがいないのだから、発展のしようがないです。

【参加者 A】

住む人と地域を守る人がいなくなるということが深刻な問題です。

また、今市地域に企業誘致などを進めて欲しいです。今市地域が活性化して通える範囲に働く場ができれば、若い人が地元に残り、空き家などを活用して栗山に移住してくれる可能性も出てきます。

【市長】

確かにそうです、働く場ですよね。起業支援は商工課で実施していますが、親世代の働く場がないと子育て支援にもつながりません。地元でそうした場を作れるかということですね。

【参加者 B】

西川自治会としては20世帯です。西川地区に20棟の市営住宅がありますが、建築後20年以上が経ち、現在7世帯が入居している状況で、70歳前後が大半と高齢化しています。雪が多く除雪も大変で、病院も遠く、今後暮らしていくのが難しい方も増えてきています。空き家は多くありませんが、別荘としての利用が増えていくのではないかと思います。

【市長】

市営住宅には、以前地域おこし協力隊が住んでいましたか。

【参加者 B】

今はないが、昔は地域おこし協力隊も住んでいました。市営住宅ができた当時は、20棟すべて埋まっていた、板橋区から定年退職した方々が4世帯来て住んでくれていました。当時は板橋区とは色々な交流がありました。

市の合併時に完成した道の駅も20年が経過し、色々なところが傷んできていますので、補助をお願いしたいです。

【市長】

西川の市営住宅は市内と比べても建物は戸建てで綺麗だし魅力的です。立地の問題はありますが、他地域や企業との連携など活用策を検討していきます。

板橋区との話は初めて聞きました。現在は、姉妹都市が苦小牧市、八王子市、小田原市、友好都市が台東区

と板橋区となっています。我々も姉妹都市・友好都市交流について、より具体的に事業を進めようと考えています。

【参加者 C】

日光市全体で高齢化が進んでいると実感しています。歴代市長の尽力で川俣温泉の間欠泉が出ましたが、台風で埋まってしまい復活していません。観光客もせっかく来たのに見られなかったと残念がっています。地元選出の国会議員や県議会議員に相談したが、お金がかかることもあり、日光市がやらないとできないと言われました。

【市長】

詳細については担当課に確認するが、私が説明を受けたのは、現在出ていないのは詰まっているわけではなく、地殻変動の影響で圧が弱くなったことが原因で出なくなっており、再度間欠泉を出すのはかなりハードルが高いと聞いています。

【参加者 C】

金銭的な支援があれば、また復旧できるという専門家もいました。市で何か対応できないでしょうか。また、旅館業者の外国人従業員が自治会に加入しておらず、ゴミ捨てのルールを守らず捨てています。言葉がうまく通じないこともあり、ゴミ処理や運営面で困っています。

【市長】

担当課で対応するようにします。

【参加者 C】

川俣と川俣温泉で100軒くらい世帯があったので2つの自治会に分けたが、今は併せても50軒程度しかありません。自治会の合併もあるかなと考えています。

【市長】

自治会のあり方は、加入率の低さや高齢化の点からも各地区で議論になっています。合併はハードルが高いと感じる部分もあり、自治会の横のつながりを持って、助け合うということは必要になってきます。いただいたお話については持ち帰らせていただきます。

【参加者 D】

日向地域は3自治会あるが、全体的に高齢化しており、1人暮らしも増えています。公共交通がないため通院なども車での移動が基本となっているが、運転が不安な方もいらっしゃる。免許返納をしたくてもできない状況のため、移動サービス支援の充実を検討して欲しいです。1人で暮らすことが難しくなり、子どもと一緒に暮らすために仕方なく栗山地域を出ていく人もいます。

また、日向地域には特段の観光施設がないため活性化が難しいと感じています。閉校となった学校の利活用を模索したいですが、なかなか事業者誘致も人材確保も難しく、何か工夫や新しい支援があればと思います。

【市長】

小中学校の利活用についても地域の事業者の方に何かの時にはお手伝いをお願いしたいという話をしているところです。

【参加者 A】

上栗山で移動サービス支援をやったが、運転するボランティア側の都合もあり、なかなか難しい。バスでの移動支援を事前予約でやっている地区もあるが、地域で運転手が見つかるのが難しいと感じます。市として運転手を採用して安定した収入を得られればやる人もいると思います。

【参加者 E】

この10年でここまで集落が無くなるとは思っていませんでした。高齢化で子どもがいなくなると、都会に住む子どもが親を呼び寄せて集落から人がいなくなっている状況にあります。本人は栗山地域に住み続けたいが住めないということのようです。

冬季の除雪や屋根の雪下ろしもこれまで助け合ってきたが、高齢者ばかりになった現状では厳しいです。大きい除雪機はあるが、やり手がない状況です。

【地域振興部長】

以前は栗山地域に学生や市内のボランティアが入っていたが、コロナを機になくなってしまいました。ボランティアに対する接待が負担になってしまったという声もあったようです。

【参加者 A】

栗山地域の人は無料で何かをやってもらおうとそれ以上にお返しをする人ばかりです。ボランティア側にも気を使わせてしまうということもあると思います。市や自治組織での支援やボランティアへの対応、またその謝礼などについてルール作りが必要ではないかと思います。

祭りにボランティアを呼ぼうとしたこともあるが、地元の人がやるから祭りなんだという意見もありました。

【市長】

どの地区でも自治会運営、伝統行事の継承、若手の減少が課題となっています。以前、栗山の獅子舞では、市外に住んでいても祭りのときは帰ってくるという話を聞き、凄いことだなと思いました。

【参加者 C】

先日、道路の道に木が出ていて危険だったため、県議会議員と一緒に日光土木事務所に陳情に行ったところすぐに対応してもらえました。毎年お願いに行っているところではありますが、若間のトンネルは地権者との関係で全然進んでいないと聞いています。

【市長】

皆さま本日は貴重なご意見ありがとうございました。本日いただいたご意見は担当課と共有し、できるものから対応、また今後のまちづくりの参考資料として活用していきたいと思っております。本日はありがとうございました。